

社会実装を見据えた テラヘルツ新技術の展開

平成28年3月21日(月)13時30分～18時

主催: 応用物理学会 テラヘルツ電磁波技術研究会

テラヘルツ波は大容量通信、センシングなど様々な応用の可能性が期待されています。本シンポジウムはテラヘルツの基礎技術の社会実装を加速させるため、研究者、装置開発者、ユーザーが情報を共有し応用展開を加速させる機会として企画しました。

招待講演者

川瀬 晃道 (名古屋大学)

LiNbO₃結晶を用いたテラヘルツ光技術の進展

平山 秀樹 (理化学研究所)

THz量子カスケードレーザの進展と今後の展望

浅田 雅洋 (東京工業大学)

共鳴トンネルダイオードによる

室温テラヘルツ発振器と応用に向けた高機能化

小川 雄一 (京都大学)

テラヘルツ波による細胞研究の可能性

水津 光司 (千葉工業大学)

励起光状態変化によるテラヘルツ波検出技術

および導波路導入による高効率化

富永 圭介 (神戸大学)

テラヘルツ帯における凝縮相分子科学

他に公募による一般講演3件を募集しています